

# MESSAGE

視点を変えて、人生を楽しむ男たちからのメッセージ

**新しい自分へ。いつ  
からでも始められる  
心ゆたかな生き方。**



滋賀県



## あなたの今をチェック

### ● セカンドライフをどう送りますか？

- 定年退職後にしたいと思っていることがある
- 自分の能力やできることがわかっている
- 季節に応じた自分の服選びができる
- 5品以上の料理を作ることができる
- 掃除・洗濯が苦にならない

## 現役時代の経験を 地域で活かせる喜び

仕事で得たキャリアを地域社会に役立てたいという企業OBを中心に  
2003年9月、大津市に誕生したNPO法人ビジネスサポート・ネットワーク(BSN)。  
藤田さんは、就職支援セミナーの講師として活躍しています。

木之本町在住

**藤田暢彦さん**

NPO法人ビジネスサポート・ネットワーク(BSN)  
副理事長・就職支援部会長

(社)中高年齢者雇用福祉協会  
PREP研究員・主任講師

退職を機に横浜からUターンしてきた藤田さん。大手企業の人事総務部門で得た経験を活かして、人生80年時代のライフワークをもちたいと、中高年齢者雇用福祉協会で講師の資格を取得。「ライフプランセミナー」を始めたことが、BSNの活動につながりました。BSNでは、高校生や若年層、中高年離職者への就職支援セミナーや模擬面接を担当。「メンバーで県内各地の高校へ出講し、働くことの意義を伝えています。今後は、ニートやフリーターの就職支援、新入社員の合同研修、若年層の定着対策をテーマにしていきたい。さらに、中・高生の職業観を育てるために、行政や教育委員会とも連携した活動を展開したい」と使命感を抱いています。

●BSNホームページ <http://www.oowa.co.jp/soho/bsn/index.htm>

セミナーの受講者から相談を受けたり、自分の担当した講座が好評だと聞いたりすると、人や地域のために役立っていると実感できて何よりうれしく、また、業種も年齢も違う人との新しい出会いは、ものの見方が広がり、発見があります。長年培った会社での経験をもとに自分を活かす場を見つけたことが藤田さんの生きがいにつながっています。

団塊世代の男性には「今、自分ができることは何かを洗い出して、ボランティアや仕事も含めた自分なりのライフプランを立ててほしい」とのメッセージが贈られました。

# 仕事をしながら、 自分の居場所づくりが できる幸せ

市役所に就職して20数年、財務畑一筋だった武藤さんは「花と緑の推進課」に異動になって間もなく、里山保全活動を始めました。参加するのは小学生から高齢者まで。世代間交流をプロデュースするのも楽しみです。

## あなたの今をチェック

### ●仕事以外の楽しみがありますか？

- 自分は仕事ひとすじ人間ではない
- 仕事関係以外の友人や仲間がいる
- 仕事以外の活動・学習・趣味がある
- 仕事以外の活動・学習・趣味を家族も理解している
- 仕事以外の活動・学習・趣味を続けるつもりでいる



## 東近江市在住 武藤精蔵さん

里山保全活動団体「遊林会」世話役  
東近江市役所 花と緑の推進課課長

愛知川の河辺に広がる15ヘクタールの平地林で武藤さんが『遊林会』の活動を始めたのは、1998年。当時は竹が生い茂り、足を踏み入れることも難しい状態でした。

豊かな里山を取り戻すには多くの人の協力と長い年月が必要です。本当にやりたいと思う人だけが集まる会にしようと、参加の仕方も作業のメニューも自由に選べるシステムにしました。汗をかく充実感と参加者同士の交流の楽しみ、“自然”のもつ魅力に惹かれて作業日には50人以上が集まります。「自分の作業が心地良い里山の風景につながるのを楽しめますよね。人の手が入って森が明るくなり、里山本来の姿に戻っていくことと、みんなの喜ぶ顔を見ることが私の生きがいです」と武藤さん。平地林は『河辺いきものの森』と名づけられ、『遊林会』と東近江市の協働で、人と自然、人と人をつなぐ森へと見違えるような変化を遂げています。

最近、60代以上の人たちが自発的に平日にも活動を始めました。今後は、シニアの生きがいにもつながる世代間交流を活発にし、みんなで一緒に居場所づくりをすることが武藤さんのテーマです。定年まであと5年。この活動を始めるまでは、定年退職したらこの地を離れようと思っていました。「今ではここに骨を埋めるつもりです。東近江は私の第2のふるさと。ここを、子どもたちが自然の移ろいを実感し、子どもの笑い声が聞こえる場所にしたい」と武藤さんは瞳を輝かせます。

●遊林会ホームページ <http://www.bcnp.co.jp/ikimono/yurin/>

# お互いの好きなことを尊重しあえる信頼感

結婚25周年を迎えた牧野さんご夫妻。吹きガラスをライフワークに選んだ夫にとって、妻は創作意欲を刺激しあえる存在です。毎日の会話が、お互いを深く理解しあうことにつながっています。

彦根市在住 牧野善昭さん・孝子さん

1981年結婚 善昭さんは2005年5月にガラス工房「善」オープン。  
孝子さんは1994年1月にカントリ雑貨店「Varna House」オープン。

して続けるのがひとつの目標」と顔を引き締める善昭さんに、「ダメだったらやりなおしたらいい」と笑う孝子さん。「家族の中でも同じ年代を生きるのは妻だけ。だから、結婚当初からふたりの時間を大切にしています」と語る善昭さん。「パッチワークをしているときが一番イキイキしているから」と孝子さんにお店を出すように勧めたのも善昭さんでした。

共通の夢は「ふたり展」。つくるものは違っても作品で自分の世界を表現するふたりは、これまでも、そしてこれからも、お互いが一番の理解者です。

会社員時代から、ものづくりが好きだった善昭さん。吹きガラスを体験したときに「これだ!」と心が躍りました。華やかさと廃ビンを原料にしたガラス作品のもつあたたかさに惹かれたのです。教室に通いだしてますます夢中になり、52歳で退職して工房をオープン。友人が46歳で逝ったこと、善昭さんのお父さんが元気だったのは68歳までであったことから自分の人生の残り時間を考え、決心するきっかけになりました。

制作体験教室を開き、注文も入るようになりましたが、「60歳まで生活できる仕事と

## あなたの今をチェック

### ●妻のことどれだけ知っていますか？

- 妻の友人の名前を3人以上言える
- 妻の趣味や活動を知っている
- 妻が今何に関心があるかを知っている
- 妻の心配事や悩み、不満を知っている
- 妻と老後について話しあっている

MESSAGE

中村 正



# 自分の居場所がみつ かっていない男たち

団塊世代が60歳を迎えようとしている今。走り続けてきた男性たちは、どんな時代を生き、これからどんな生き方をしていくのでしょうか。

## ニューファミリーと言われ、ふと気づいたら

戦前の世代がつくった社会や価値観に反発を感じ、次々と新しい文化を生み出したのが団塊世代です。“ニューファミリー”と言われましたが、「男は外で働き、女は家庭を守る」という性別役割にそった家庭をつくり、高度成長期にはそれが機能したものの80年代以降はほころびがみえています。家事にも育児にも地域活動にも参加してこなかった男性は、そのままだと定年後の居場所がありません。家庭や地域で一人の人間として対等で互いに居心地のいい関係をつくる必要があります。

## 生き方を自分で選べる時代、視点を変えてみる

まず、家族。仕事中心の生活で妻との会話が少なくなっていますか。子どもの成長後は夫婦で向き合うことになるので、病気になったときの対応も含めて話し合っておくことが大切です。妻とのいい関係を築くポイントは、自分のことは自分ですること、相手に感謝し褒めること。そうすれば、相手からも感謝の言葉が返ってきます。

それから60歳になっていきなり生き方を変えようとしても難しい。まず、人生のたな卸し作業をして、人間関係や仕事で得た技能、使っていない能力を点検してみる。そして、これからどうしたいのか、何ができるのかを考えてみるのです。

## 変化する自分を楽しんでみる

自分の住んでいる地域を見回してください。必ず何か、あなたが役に立つ場があるはずです。仕事の肩書きをはずして、気負わずにかかわってみてください。新しい人間関係が生まれることや違う世界の発見を楽しめる人は、充実した人生を送ることができます。いずれにしても準備を始めるのは早い方がいい。仕事が忙しくても趣味をもったり、交友関係を広げたり、地域とかかわったり、今から始められることを考えてみましょう。

人はだれでも変化する可能性をもっています。いつも社会にインパクトを与えてきた団塊世代が、新しい生き方のウェーブを起こしてほしいですね。

中村 正さん

1958年生まれ。立命館大学大学院 応用人間科学研究科教授。専攻は臨床社会学、男性学。  
NPO法人「きょうとNPOセンター」常務理事。メンズ・サポートルーム世話人。

## 戦後生まれの生きてきた時代

### 1940

- 1945 婦人参政権実現
- 1946 両性の合意による婚姻、夫婦の同権（日本国憲法）。この年の離婚、例年の2倍
- 1947 男女共学開始
- 1949 第1次ベビーブーム出生数270万人で史上最高

### 1950

- 1953 「電化元年」家電製品の相次ぐ開発・発売。三種の神器（洗濯機、冷蔵庫、掃除機）と呼ばれる。テレビ放映開始
- 1956 初の団地（DKスタイル）建設。団地住宅の大量供給。「もはや戦後ではない」（経済白書）
- 1958 インスタントラーメン発売

### 1960

- 1960 「家つき・カーつき・ババぬき」女性の結婚観
- 1961 所得税の配偶者控除制度発足
- 1962 主婦のパートタイム就労増え始める
- 1963 夫婦共稼ぎ増加。子どもは「カギっ子」と呼ばれる
- 1964 東京オリンピック開催
- 1966 女性みの結婚退職制について初の違憲判決。ビートルズ来日公演
- 1967 ミニスカートブーム
- 1968 全国に学園紛争広がる

### 1970

- 1970 高齢者人口が7.1%になり「高齢化社会」へ。大阪で万国博覧会
- 1971 定年制で男女を差別している事業所は24.3%（労働省）。ハンバーガーショップ開店
- 1973 第1次オイルショック
- 1975 平均世帯員数3.48人、核家族世帯比64.0%、単独世帯比が急増（国勢調査）
- 1976 「団塊の世代」堺屋太一。ベビーブーム世代がさまざまな社会現象を起すと言。ロッキード事件
- 1977 「ニューファミリー」団塊の世代が「友だち夫婦」のイメージで核家族の典型となる

### 1980

- 1981 「粗大ゴミ」仕事一筋の定年後の男性が家庭で居場所がなく、役に立たないことの意味
- 1983 テレビドラマ「金曜日の妻たちへ」
- 1984 男女の地位は平等でない73.9%、自立できれば結婚を望まない女性3割超（総理府）
- 1985 「家庭内離婚」話もせず食事や寝室も別といった夫婦の状態
- 1986 男女雇用機会均等法、改正労基法施行。企業はコース別雇用制度導入へ

### 1990

- 1990 「結婚しないかもしれない症候群」谷村志穂。合計特殊出生率が過去最低の1.57（1.57ショック）
- 1991 性別役割分担に否定的な男女約4割、夫婦別姓選択制に賛成約3割、前回調査より増加（総理府）
- 1992 共働き世帯が専業主婦世帯を上回る（労働力調査）
- 1993 国籍法改正、パートタイム労働法成立。エンゼルプラン（子育て支援のための総合事業計画）発表（厚生省）
- 1994 国際家族年。母子手帳の男性版「父子手帳」発売
- 1995 阪神・淡路大震災
- 1999 男女共同参画社会基本法施行

### 2000

- 2000 介護保険法施行
- 2001 男性の家事時間週平均14分。25年間ほとんど変わらず（社会生活基本調査）
- 2002 高齢化率18.5%、2025年には24.4%と推計
- 2004 1998年から自殺者が連続3万人超。多い中高年男性
- 2005 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に「反対」が「賛成」を上回る（内閣府）。テレビドラマ「熟年離婚」。合計特殊出生率1.29

平成18年3月

### 発行／滋賀県立男女共同参画センター

〒523-0891 滋賀県近江八幡市鷹飼町80-4 TEL.0748-37-3751 FAX.0748-37-5770  
http://www.pref.shiga.jp/c/g-net E-mail: g-net@mx.biwa.ne.jp  
企画・編集／(株)オフィス・オルタナティブ